

## interview



大富小学校  
作田 珠江先生  
(5年・6年生時の担任)  
穏やかに過ごした学校生活

教室では、1から10までの数の勉強、物や人の名前を漢字で書くなど、「言葉の教室」からの課題や、日常生活に必要な伝える言葉の学習に取り組んでいます。また、手先が器用なのでアイロンビーズという型にビーズをはめ込む作品作りや、彫刻も取り入れた卒業記念作品作りもしました。特に配慮していることは、不調不良の時に、それを伝える言葉がほとんどないので、様子を見てどこがどうなのか想像して対応するようにしています。日常生活では、にこやかにやさしく接してあげること麻衣さんもおだやかに生活しています。

合いましょう」との温かい言葉と、必要に応じて親が介助するという事で許可が下り、1月から3月までの約3か月の練習を重ね入学式を迎えました。6年たった今はたくさんの健常児のお友だちとの交流のおかげで言葉で気持ちを伝えることも増え、集団活動も上手になりました。さらに、学校以外にも私たちと一緒に育ててくれたり、支援や相談に乗っていただけたる児童・デイサービス「いちご」が山口市にもでき、親の気持ちは千倍の努力から千分の1のパワーでがんばれるようになりました。



大富小学校  
介助員  
秋葉 久美子さん  
泣かなくなったね!

2年生から5年間、介助を通して麻衣ちゃんに接してきました。可愛い子で、集団生活に慣れてきたところで卒業していくのはさびしいです。接し方をご両親から聞いて同じようにやり、「待っているからね」と1人でやれるように援助をしてきました。学校の子どもたちも麻衣ちゃんを理解し、「麻衣ちゃん、泣かなくなったね」と普通に接してくれます。

は自分の気持ちを安定させ、また回復させるためにしている行動なので見守ってあげてください。簡単な言葉でやさしくはつきりと話しかけていただけると物事が理解しやすく、同時に身振りや具体的な絵や写真があるとコミュニケーションが取れる子なので、笑顔でがんばっている麻衣を見かけましたら声をかけて友達になっただけてください。毎日がサブライズな娘に新鮮な我が家です。笑顔いっぱい癒し系の麻衣は我が家の宝物です。麻衣にはみなさんから可愛がっていただけている女性に



児童デイサービス「いちご」  
理事長  
野口 よし子さん  
親も肩の力を抜いてほしい

麻衣さんが「いちご」に始めてきた時は、外から眺めるだけで帰りました。2回目はドアまで来てくれました。何度か練習して活動のスタイルが決まると、室内では同じ場所で好きなおもちゃで遊び、外のブランコに乗るのを楽しみにしています。

温かい家庭とがんばる学校、そして第3の場所として一緒に楽しく日常生活を送っています。かたくなにがんばってきた親も、肩の力を緩め気軽に利用していただけたらと思います。

現在、市には18歳未満の障害を持つ子は148人。家族はみな同じように悩み、克服して、我が子が幸せに暮らせる世の中になることを願っています。成長に伴っての課題は尽きることはありません。試行錯誤を繰り返しながら少しずつ成長する麻衣ちゃん。新しい環境で自然に大人として生きていける場所を作るためにも、麻衣ちゃんがんばれ!

大人になっても、この地域で自然にあたりまえのように家族で暮らすには、地域の方々にも麻衣を知っていただきたい、理解していただきたいの思いから養護学校ではなく地域の小学校を希望しましたが、重度の障害のある子どもを地域の小学校に入学させたいとの願いには、涙を流す厳しい現実にもあたりました。

そんな時、大富小の校長先生から「やってみましょうよ!! スタートしてみないとどんな成長した麻衣ちゃんに会えるかわからないし、辛くなつた時には次の選択肢を話しました。」

4月からは東金特別支援学校の中学生になります。今の私たちは新しい事にチャレンジする麻衣に不安よりも期待が持てる心の余裕もできました。

これからも、この地で自然に麻衣との生活を楽しんで暮らすために、苦手な公共の場での買い物や公共の乗り物、旅行などたくさんさんの練習と挑戦をしていきたいと思えます。麻衣をお見かけになった時、他の方には不思議に見える、何度も同じことをする繰り返し行動や、独り言、パニックも自閉症の人たち

なっていて欲しいのです。